

「意欲的な評価指標」として指定された指標

I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 研究に関する目標を達成するための措置

○中期計画

【9-1】 知の集積拠点としてのモデルとなるべく、ダイバーシティ研究環境の実現を推進する。従来の保育システムを病児・病後児にも拡張するとともに、育児・介護等に携わる教員に支援員を配置する教育研究支援員制度や、学会発表や論文発表の経費支援を行うスキルアップ支援制度を引き続き活用する。これらにより、ライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の改善、女性研究者の積極採用、研究を中断した女性研究者の復帰支援、上位職（准教授以上）の比率向上等に取り組む。

○評価指標

【9-1-4】 奈良女子大学における女性教員比率の向上〔第4期中期目標期間終了時点で41%〕、女性教員採用比率の維持〔第4期中期目標期間終了時点で50%〕

I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置

○中期計画

【11-2】奈良教育大学附属学校園は、以下のことに取り組む。

- (1) 奈良県や奈良市の教育委員会と連携して、地域の教育課題の解決に資する実践事例を作成・提供し、地域のモデル校を目指す。あわせて、ユネスコスクールとして幼小中で一貫した ESD カリキュラムとそれを具体化した ESD カレンダーの開発を進め、教育モデルとして全国に提供する。
- (2) 附属幼稚園を全国初となる国立の「附属幼保連携型認定こども園」に移行させ、乳幼児の教育・保育を行うことに加え、1) 全国のこども園等のモデルとなる乳幼児期から小学校までを貫くカリキュラム、2) 親性育成を基盤とする子育て支援プログラム、3) 乳児からの育ちを見通せるこども園保育教諭の養成カリキュラムの開発・提供を行う。
- (3) 附属小学校は、様々な発達の課題や生活背景等、児童の多様性に対応するインクルーシブ教育について実践研究を行う。
- (4) 附属中学校は、ホールスクールアプローチとしての ESD 推進を教育活動の柱とし、将来社会に向けて、問題発見と課題解決に向かう人材を涵養するべく、STEAM 教育と ESD を融合した教育内容の開発を進める。また、そのための情報活用能力と創造性を育む ICT 教育についての実践研究を行う。

○評価指標

【11-2-2_01】全国初となる国立の「附属幼保連携型認定こども園」を設置し、令和6年度から2歳児を、令和8年度から0-1歳児を受け入れる。